

研究主題

心と身体を弾ませて、生き生きと遊ぶ子どもの育成

—コーディネーショントレーニングの実践から—

研究主題について

1. 研究主題設定の理由

幼児の実態

本園の幼児は明るく素直で、自分の気持ちをありのままに表現する幼児や、製作やごっこ遊びなど、様々なことに興味・関心をもって取り組む幼児が多い。身体を動かす遊びや戸外遊びへの取り組みには個人差があるものの、自ら取り組む幼児も見られる。一方で、身体の動きがぎこちない、姿勢の保持が難しいなどの姿が見られている。また、幼児のほとんどは高層住宅に住んでおり、降園後、塾や習い事に通う幼児が多い。家庭で身体を動かして遊ぶ機会は減少する傾向にあり、戸外遊びの質もまた、環境の変化とともに課題となっている。

平成 30 年度施行の幼稚園教育要領 領域「健康」においては、「様々な遊びの中で、(中略)体を動かす楽しさを味わい、幼児が自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること」、「多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること」が、内容の取扱いに示された。また、「幼児期運動指針」(平成 24 年 3 月文部科学省)では、幼児が様々な遊びを中心に楽しく身体を動かすことが望ましく、その推進に当たり、多様な動きを経験できるよう様々な遊びを取り入れること、楽しく身体を動かす時間を確保すること、発達の特性に合った遊びを提供すること、の三点が大切であることが示されている。

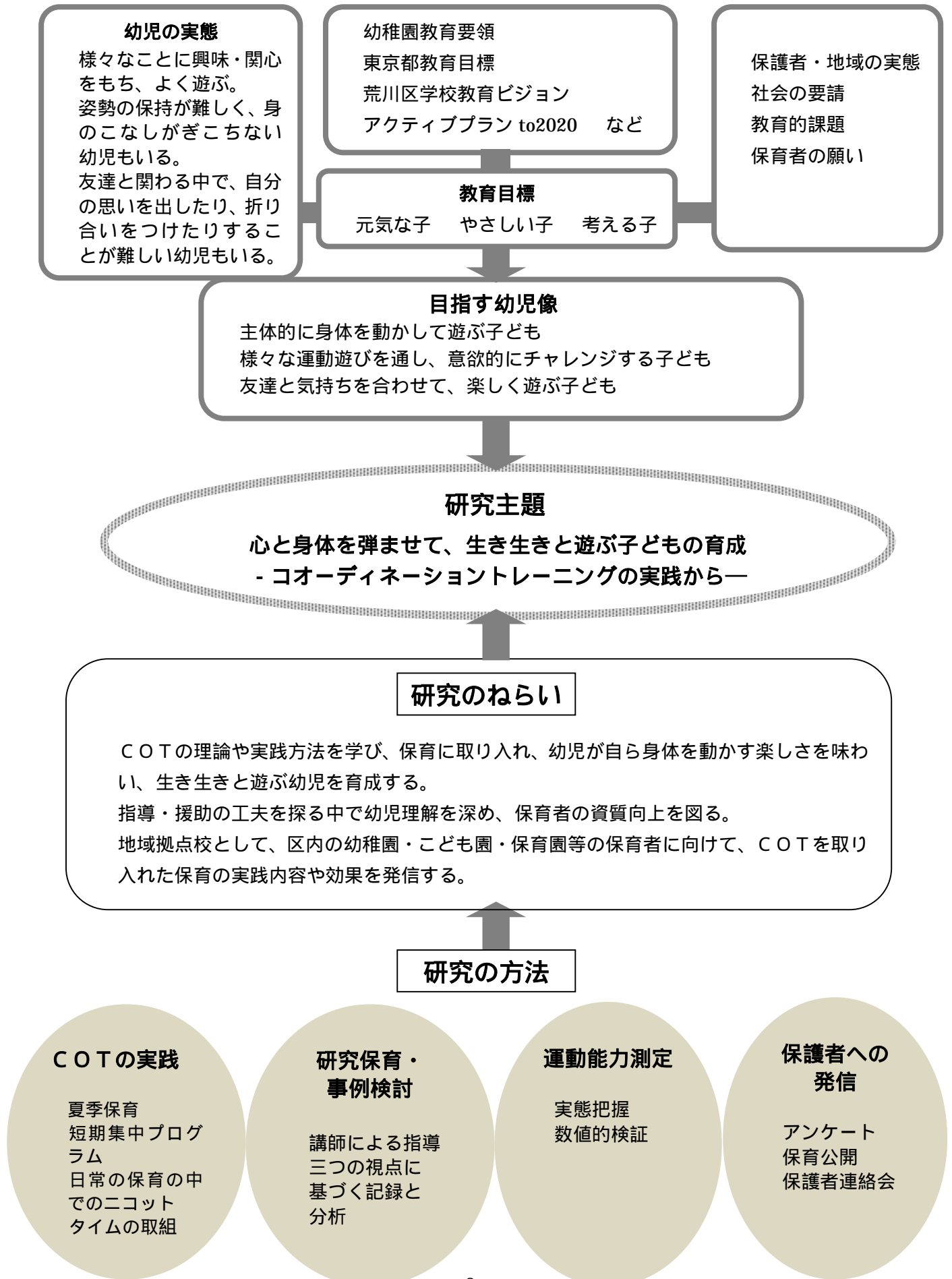
コーディネーショントレーニング推進事業

昨年度、東京都教育委員会が平成 25 年度より推進しているコーディネーショントレーニング(以下 COT と表記)の地域拠点校として、NPO 法人日本コーディネーショントレーニング協会(以下 JACOT と表記)の講師のご指導をいただく機会を得た。東京都教職員研修センターにおいて、荒木秀夫先生(徳島大学名誉教授・JACOT 理事長)による研修を受講し、保育者も理論や指導法を学びながら保育の中で実践し、幼児が生き生きと取り組んでいく中で、運動欲求や意欲の向上・集中力の持続・気持ちの切り替えが早くなるなど、様々な幼児の変容を実感することができた。また、動く楽しさや主体性を大切に、刺激を与えて待つ、自分で気付くことを支援する指導法に、幼児教育との共通性を感じることができた。加えて、昨年度は個人の変容を捉える中で、友達の様子に関心をもって見る、相手の動きに合わせて動く、応援するなどの姿も見られ、COT が人と関わる力の向上にも有効であることを実感することができた。

今年度は、引き続き地域拠点校として、次の三つの視点を持ち、研究を進める。第一に、指導法を学びながらさらに実践を積み重ねるとともに、数値的な観点からも幼児の変容を捉える。第二に、人との関わりの視点に着目し、幼児の変容を捉える。第三に、保育者自身の保育場面での変化、気付きを捉える。

以上から、日常の保育と COT を絡ませながら、心と身体を弾ませて、生き生きと遊ぶ幼児を育てていきたいと考え、本研究主題を設定した。

3. 研究の構想図



まとめ

1. 成果

新たな COT の効果や幼児の変容を捉えることができた

地域拠点校二年目として、COTの理論や実技、指導法について学び、保育実践を行ってきた。身体だけでなく、心も健やかになり、生き生きと遊ぶ幼児の育成につながった。

また、今年度は、新たに人との関わりにも視点をもってニコットタイムを積み重ねたことで、運動技能や運動欲求の向上だけでなく、様々なことへの意欲や関心の広がり、感情のコントロール力、人と関わる力や言葉による表現力など、いわゆる非認知的能力の高まりとしてもCOTの効果を実感することができた。これらの結果は、ニコットタイムだけでなく、幼児の発達や日常の保育の中での指導・援助の積み重ねと絡み合っこそ、より幼児の育ちにつながったと考える。

幼児理解や指導力が向上した

COT の取組、事例検討を重ねる中、保育者自身の変化や気付きも捉えてきたことで、幼児理解や指導力向上につながることができた。

数値的にも COT の効果を捉えることができた

運動能力測定を実施し数値的にも COT の効果を捉えることができ、課題の発見にもつながった。

2. 今後の課題

COTの継続、保育者のさらなる指導力向上に向けて

- ・次年度もニコットタイムを継続していくにあたり、教育計画への位置付けや日常の保育に取り入れるなど、工夫が必要である。また、他の保育者によるニコットタイムを見る、他学級の保育者が行う、縦割りで行うなど、ニコットタイムの実施の仕方も工夫することで、保育者自身の幼児理解やさらなる指導力向上につながると考える。
- ・今後もCOTの研修会への参加や、講師による実技指導の機会を設け、幼児の発達に応じたプログラムの精選や指導・援助について学んでいく。
- ・今年度は一年間の取り組みの中での幼児の変容を捉えたが、二年・三年とCOTを継続していくことでの幼児の変容について捉えていく。

幼児の運動能力の向上に向けて

- ・運動能力測定を行い、本園の幼児は『ソフトボール投げ』の数値が全国平均と比べて低いことが分かった。今後は、ニコットタイムで高まっている運動の学習能力や動きの感受性を土台として、自分で工夫しながら身体を動かしたり、投げる喜びを感じられる遊びなどを日常の保育に取り入れれたりし、さらなる運動能力の向上に繋げることができるようにする。

これらの成果と今後の課題を踏まえ、これからも日常の保育にCOTを織り交ぜながら、幼児が心と身体を弾ませて、生き生きと遊ぶ保育実践を重ねていく。

<参考資料>

- ・JACOT(2014)「JACOTライセンス教本-コーディネーショントレーニング実践と地域連携協働事業-」
- ・東京都教育委員会(2017)「脳と体幹を刺激するコーディネーショントレーニング実践教材集」
- ・荒木秀夫(2018)「コーディネーショントレーニングの理論と実践」東京都教職員研修センター専門性向上研修資料